

# 未来づくり懇談会（ハッピーハイランド矢板）会議録

日 時：平成29年10月3日（火）

18：31～20：18

場 所：ハッピーハイランド矢板自治公民館

出席者：市長、教育長、総合政策部長、  
下水道課長

1 開 会 18：31 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

○持続可能な矢板東部地区のまちづくりについて

・資料に基づき、人口・高齢化率推移等を説明

5 行政区設定テーマ

○ 集中浄化槽の市委譲への早期実現について

A 資料に基づき、下水処理施設の経緯等説明。

ハッピーハイランド矢板の下水処理施設は昭和59年をはじめとし、33年にわたり協議や陳情などが行われてきた。

昭和44年・・・・・・造成工事着工。

昭和50年4月・・・・・・造成工事完了。

昭和59年・・・・・・維持管理費の補助について協議。

平成7年3月・・・・・・下水処理場の矢板市への移管についての要望。

平成7年11月・・・・・・下水道接続についての請願が議会に提出される。

平成8年・・・・・・採択。

平成16年・・・・・・下水道早期接続の要望。用途地域を優先。

平成26年5月・・・・・・公共下水道早期接続の要請。市は個別の浄化槽整備を提案。

平成26年10月・・・・・・個別合併処理浄化槽設置時の要望事項。補助制度の拡充と市の組織体制についての要望。

平成26年12月・・・・・・市設置型浄化槽の整備の要望。

平成27年4月・・・・・・市設置型合併浄化槽早期対応の要望。

平成27年11月・・・・・・市設置型合併浄化槽転換の陳情書が議会に提出。

平成27年12月・・・・・・議会にて継続審議。

平成28年3月・・・・・・議会にて継続審議。

平成28年6月・・・議会にて継続審議。

平成28年9月・・・不採択。

平成29年7月・・・ハッピーハイランド矢板行政区の課題と要請について。集中浄化槽の問題のほか、近隣の廃棄物問題、交差点問題、歩道の設置、公園管理、空き地等の防犯などに関する要望。

平成29年8月・・・ハッピーハイランド矢板行政区の課題と要請に係る面談。集中浄化槽委譲について、運営管理と使用料金についての話があった。今後、関係資料を突き合わせて協議。

平成29年9月・・・ハッピーハイランド矢板行政区に係る集中浄化槽の運営管理に関する資料の提供依頼。市の公共下水道管理の資料と、ハッピーハイランド矢板側の運営管理の資料と突き合わせる必要あり。これにより現在協議中。

○東部地域の未来永続的な発展には。

・区長より資料に基づき説明。

東部地域はもともと農村地域。市内（市街地）から見ると発展から取り残されているイメージ。ロビンシティとともに団地としての地域だが、何とかして暮らしやすい地域にしようと思っている。

特に高齢者の生活にかかる問題が課題となっている。

①提案として市内バスの運行改善。行きは10分、帰りは60分。

②民生委員や社会福祉協議会とも相談しているが、外出支援としてカーボランテア制度をモデル地区として創設してはどうか。

③東部地域に食品スーパーや野菜直売所を。

④小学校の通学について、市内（市街地）の小学校に通えるように。豊田小だと児童数が少なすぎ、課題も多いため、別の地域に新築したり移転する人もいた。公共施設統廃合の件も含めて考える必要があるのではないかと。

⑤生活排水について、ハッピーハイランド矢板としては集中浄化槽の市委譲を検討している。将来公共下水道の接続可能性を検討できるよう、国道4号拡幅工事に合わせて公共下水道本管の埋設をしてはどうか。

⑥市民体育祭の廃止を。回覧版で募集しても応募ゼロ。役員のための体育祭になりがち傾向となっている。一方、公民館で実施している卓球は卓球台が不足するほど人気。グラウンドゴルフも20～30人常時集まってやっている。行政区ごとの個別のスポーツ大会に切り替えてはどうか。

⑦行政区ブロックの統合について。隣接のロビンシティが独立するという話も聞いている。ロビンシティとはいろいろなところで連携しているので、行政区のブロックは統合を模索してはどうか。

⑧交通網の改善について。自転車のまちの推進のため、郊外（将軍塚付近）からまちうちへの自転車道の整備をしてはどうか。また、中交差点混雑解消をお願いし

たい。

⑨隠れた歴史的遺構、文化財等の観光資源を開発、東部地区を市観光ルートに乗せるてはどうか。沢村城、将軍塚、澤観音寺など。

過去、平成4年にハッピーハイランド矢板の公共施設（道路・会館・公園等）の乗っ取り問題が発生したことがある。公共物は速やかに市委譲を実行しないと大変なことになる。浄化槽も同じことが言えるのではないか。公共物は必要なものは必要な時期にタイミングよく。浄化槽をいつまでも行政区で管理できないし、生活インフラが中途半端な状態では新しい入居者も入ってこない。新しく入ってくる人のために価値を上げていく必要がある。ご尽力をお願いしたい。

A ①②について。高齢者の生活をどう支えるか。市営バスは10月1日から75歳以上の方は無料化するが、それだけで高齢者の交通手段の確保がなされるとは思っていない。市営バスに乗ってもらうことで、バス停までの距離が遠いとか、バスの本数が少ないとか、そもそもバスが通ってないといった声を、アンケート調査で受け止めさせてもらいたい。例えば、他の市町では、デマンド交通、乗り合いタクシーといった公共交通機関が導入されている。また高齢者の方向け福祉タクシー券事業を導入しているところもある。矢板市は80歳以上の方で市民税が非課税の方に、タクシー券をひと月あたり2枚交付している。所得制限を取り払い、少し多く交付することで、仮に運転免許を返上したとしても、日常生活に支障がないようなお手伝いができないかと考えている。

平成 29 年 10 月	75 歳以上の市営バス無料乗車券交付事業の実証実験
平成 30 年 4 月	65 歳以上の運転免許証自主返納者の市営バス無料化 65 歳以上 75 歳の誕生日まで
平成 30 年 4 月	75 歳以上の市営バス無料乗車券交付事業の本格実施
平成 30 年 4 月	福祉タクシー券交付事業の見直し 85 歳以上 → 80 歳以上 ※年齢引き下げ 月 2 枚（最大 24 枚） → 年 24 枚 市外タクシー業者との協定実施

③について。食品スーパー、野菜直売所は民間ベースであり市直営でスーパーを設置するわけにはいかない。荒井地区でも要望があったが、まずは皆様の足の確保をし、中心市街地のスーパーが利用できるような仕組みを作るのが必要では。

④について。学区については非常に微妙な問題がたくさんある。一つの学区の中で特別な許可をたくさん出すと、学区が崩れてしまい、自由学区となると学校の数が確定できなくなってしまう。それを教育委員会としては重視し、学区の運用を厳格にしている。

統廃合の問題は、今年3月に矢板市公共施設総合管理計画を策定した。その中では学校を含め床面積ベースで40%縮小という計画となっている。現在は、公共施設再配置計画を策定しているところだが、学校は地域性などの問題もあり、学校適正配置検討委員会を来年度立ち上げて検討していく。

平成 30 年 3 月	矢板市公共施設再配置策定計画を策定
平成 30 年 6 月	矢板市立小中学校適正配置検討委員会を設置

⑤について。国道 4 号拡幅に合わせて公共下水道の本管の設置だが、4 号ができた時まで市の移管を待っていただきましょうという話になりかねないが、30 年以上も解決できなかった問題なので方向性は見出したい。ただ、ハッピーハイランドの皆様には今後の人口減少やそれに伴う世帯の減少等を見据えて、協力が必要となる。そうでなくては議会や市民の皆様になかなか説明がつかない。

⑥について。市民体育祭は、これまで夏季と秋季の二本立てだったが、昨年度見直し、今年度は秋季大会のみとした。ブロックも見直し、第 1 ブロック（矢板一区、二区、三区）と第 2 ブロック（矢板四区）を統合とした。今回が見直しの初年度なので、まずは 10 月 8 日の大会の様子を見てもらい、その上でご提案、ご要望等いただきたい。

平成 28 年度	市民体育祭検討委員会で夏季大会の廃止を決定。 市民体育祭ブロック編成会議で 1 ブロック（矢板一区、二区、三区）と 2 ブロック（矢板四区）の統合を決定。
平成 29 年度	1・2 ブロック合同ブロックでの参加となった。

⑦について。行政区ブロック単位での統合については、人口減少によって行政区の担い手が減っていく中で、行政区をもう少し大きくくり再編する必要があるのではないかと思う。ロビンシティは現在中行政区だが、学校にしても東小の学区と安沢小の学区をまたいでいる。ロビンシティの皆さんは分離独立を検討されていると伺っている。まずはロビンシティの状況をよく見させていただいた上で、矢板市としても中に立てることがあるとすれば、お役に立たせて頂きたい。ただ、ロビンシティは分離するか分からない、ハッピーも分離したばかりなので、お互いの状況を見つつ検討したい。

平成 30 年 4 月	ロビンシティ矢板行政区の設立
-------------	----------------

⑨について。文化財審議会でも文化財の登録を決めるが、素晴らしいものがあるということなので、今後検討させていただく。

澤観音寺は文化財を多数保管しているため既に文化財マップへの掲載や市のホームページへの掲載などを行っている。
---

## 6 意見交換

Q 1 矢板・那珂川線が朝夕混雑するので大変に困っている。国道 4 号が 4 車線になり、大田原方面への交通環境が良くなると、交通量は増えると思う。

- ・どさん子から浜屋組の周辺は拡幅されるのか。
- ・我々の団地から 4 号にどうやって出入りするのか。
- ・単に信号交差点を作っただけでは渋滞は解消しないのではないかと。
- ・中交差点の上を立体交差にできないか。また、交差点の下を歩道、小型車両専用化。中南交差点を分岐、合流の拠点にできないか。
- ・子どもたちのために安全なトンネルなどを作っては。
- ・県道がバイパス化された場合、現在の県道を拡幅してほしい。

・まちへ歩いていく道、安全に車で買い物ができる道をお願いしたい。

A 1 国道4号の整備については、平成27年度に矢板IC付近から土屋交差点までの6.5km区間が「矢板拡幅」で新規事業化されている。「矢板拡幅」は今の4号を二車線から四車線に広げていくという計画で、すでに2億円以上の調査費が投じられ、道路設計等が進められている。

土屋交差点から大田原にかけて、昨年5月31日にバイパス整備をすることが正式に了承された。土屋から山田にかけてバイパスを整備し、野崎橋より北に橋をかけ、石上小学校のあたりの道路につながるという方向性が打ち出された。

中交差点、中北交差点の渋滞が朝晩をはじめとして非常に大きな問題になっている。著しい渋滞を引き起こしているということは私どもも、国も県も承知をしている。今年の夏、重点要望箇所として直接県土整備部長や県議会議員の方、かさね橋からの中交差点にバイパス整備をしてほしいと具体的な要望をした。

県の回答としては、予算も期間もかかるので、まずは特に渋滞の著しい中北交差点の渋滞解消を最優先にしてはどうかとの答弁であった。立体交差は矢板・那珂川線の交通量を見ると、難しいのかなとの感触を持っている。

Q 2 人口を増やすには、やはり住環境の整備。市で難しかったら例えば近隣市町に通勤する人に移住してもらう方策もある。もっとPRしながら企業を引っ張ってくるべき。

- ・空き家対策について、空き家バンクも必要では。
- ・地産地消について、他の地区にないような特産をどんどん作るべき。
- ・小水力発電について、山間部では流行しているので開発、推進していくべき。
- ・特産物を開拓して観光客を呼ぶべき。
- ・ジビエについて、イノシシ、シカ、クマを活用し、道の駅で料理を出す。
- ・休耕田について、果物を作って特産物に仕上げていき、観光客を呼ぶ。
- ・自然の活用について、市役所の後ろの内川一帯をホテルが飛ぶような小川にし、ビアガーデンを開き、お客さんを呼んではどうか。
- ・市役所で他の地区の成功事例をどんどん見に行ってもらいたい。
- ・スマートICを活用して高原山から塩原に抜ける道路を売りにしては。
- ・サイクルスポーツについて、もっといろんな大会を開くべき。メディア、SNSを活用しての情報を発信。まだまだ不満を感じている。
- ・福祉の充実について、視覚障がいの方のために交差点音響がついているが、夜になるとうるさいという人がいる。バイブレーション化して福祉にも力を入れているということをもPRしてはどうか。
- ・75歳から市営バスが無料になるとのことで活用したいと思っているが便数が少ない。便を増やしてほしい。

知恵を絞って、どんどん取り組んでほしい。自分たちが高齢者になった時に、受け入れてくれる家庭ばかりではないので、自分たちが落ち着く場所が確保してもらえるのかどうか、最近心配になってきた。

A 2 人口減少ということで、地方創生が盛んに言われている。地方創生のポイント

トは二つある。人口減少に歯止めをかけて少しでも人口を増やしていく克服戦略と人口減少という現象を受け止めた上で、うまく適応していく適応戦略がある。

さきやかかかもしれないが、10月1日からの市営バスの75歳以上の無料化というのは、高齢化が進んでも何とか地域住民の足を確保しようということで始めた。

空き家の話が出たが、空き家バンクを本年度に入ってから始めたので、空き家があれば、登録して協力をしてほしい。地産地消について、農産物だけではなく、小水力発電などのエネルギーの地産地消も必要ではないかと思う。取り組みを通じて、矢板のまちの中でお金が循環していくような仕組みを作っていきたい。

◆空き家対策

平成29年6月 空き家バンク開設

◆ジビエ料理

放射性物質測定検査で数値が高いため食用不可。

◆サイクルスポーツ

平成29年7月 Jプロツアーやいた片岡ロードレース初開催  
(参加者数506人、来場者数約7000人)

平成29年8月 八方ヶ原ヒルクライムレースの開催(参加者数662人)

※上記大会のほか、地域おこし協力隊が企画する、YAITAカップ(一般対象レース)を年数回開催。

◆地産地消

平成29年度 矢板小学校および川崎小学校を対象に、地産地消給食推進事業を導入し、市内産のりんご、玉ねぎを使用した給食を年6回提供したほか、生産者の講話や農業体験などを行い、食育の推進を図った。また、地産地消給食推進会議を開催し、学校栄養士とJA間で市内農作物の取り扱いについて協議し、市内農産物を学校給食へ積極的に使用できる仕組みづくりを行った。

◆市営バス

平成29年10月 75歳以上の市営バス無料乗車券交付事業の実証実験

平成30年4月 65歳以上の運転免許証自主返納者の市営バス無料化  
65歳以上75歳の誕生日まで

平成30年4月 75歳以上の市営バス無料乗車券交付事業の本格実施

Q3 買い物するにしても行きたいお店がない。流行りのお店があったら市内で買い物ができ、時間も節約になるし、経済効果にもなる。誘致は無理なのか。

A3 そういう声はよく聞く。民間企業なので、商圈、マーケットというものをよく計算して出店をしているので思うように出店してくれないと思う。

また矢板に大規模商業施設が出展しにくい状況として、商業施設は延べ床面積広いため駐車場も何百台と必要となるが、矢板はそういう場所が見当たらない。

9月に適正な開発ができるような土地利用の指針を定めた。法律を乗り越えられるわけではないが、開発と調和したまちづくりをやっていかなくてはいけない

という方針を明確に打ち出した。誘致か人口増のどちらかが先かという話にはなるが、両方から進めていく取り組みと思う。

平成 29 年 9 月	矢板都市計画区域における土地利用方針を策定。 矢板駅西の新市街地エリアについては、優良農地との調和を図りながら、適切な土地利用を促していく。
-------------	---

Q 4 若者が子どもを産まない、結婚しないだけ。逆に言えば人口がものすごく増えてしまったら、それはそれですごく大変な問題が起きる。人口減に適応する矢板のまちづくりを考えてほしい。

A 4 結婚しないのが社会問題となっているが、本年度、婚活イベントをやることにした。市役所で知恵を絞り 200 万円規模の婚活イベントを行う。

平成 28 年 11 月	やいた未来クラブ婚活イベント実施
平成 29 年 9 月	やいた未来クラブ婚活イベント実施
平成 29 年 11 月	地域少子化対策重点推進事業交付金を受けて事業実施 矢板市未来づくりプロジェクト 「やいた de ハッピーチェーン」 5 回実施 延べ 156 人
平成 30 年 5 月	矢板市婚活イベント企画運營業務委託を実施